

下郷町青少年育成町民会議だより

青少年の主張発表、青少年健全育成作品コンクール、世代間交流グラウンド・ゴルフ大会

●編集・発行

下郷町青少年育成町民会議
(町教育委員会事務局内)

〒 969-5345

福島県南会津郡下郷町大字塩生字大石 1000

TEL.0241-69-1168 FAX.0241-69-1167

第31回下郷町青少年の主張発表者

小学生の部

No	氏名	学校名	学年	題名
1	小 山 紘	江川	5年	災害から学んだこと
2	小 椋 理 央	栖原	5年	ふるさとへのほこり、郷人
3	たま 川 かれん	旭田	5年	本当の友達とは
4	すず 鈴 木 理 子	江川	6年	幸せの種
5	おお 大 竹 沙 珠 奈	栖原	6年	私たちの革命
6	いが 五十 嵐 陽 奈	旭田	6年	命の大切さ

中学生の部

No	氏名	学年	題名
1	は 芳 賀 祐 亮	1年	今、思うこと
2	わた 渡 部 愛 佳	1年	なぜ「戦争」はあるのか
3	いが 五十 嵐 留 奈	2年	今は亡きひいじいちゃん
4	ほ 星 彩 里 菜	2年	言葉の大切さ
5	わた 渡 部 保 乃 華	3年	無駄な時間はない
6	わた 渡 部 も も	3年	新しい自分に



6月26日(金)下郷ふれあいセンターにおいて、第31回下郷町青少年の主張発表及び青少年健全育成作品コンクール表彰式が開催されました。町内小学校4年生以上の児童及び中学生約280名が参加しました。各学校の代表者12名が、主張発表を行いました。自分の考えを文章にすること、また、伝えることの難しさを感じると共に、伝える楽しさも知ることの出来た良い機会となったのではないのでしょうか。

また、青少年健全育成作品コンクール(ポスターの部・標語の部)においても、どれも素晴らしい作品で審査も困難を極めました。入賞作品については次頁に掲載しています。主張発表終了後、入賞者全員に賞状と盾が授与されました。

※今号3頁から中学生、次号にて小学生の主張発表内容を掲載いたします。

町青少年の主張発表・ 青少年健全育成作品コンクール表彰式

7月11日(土) 大川ふるさと公園において、青少年健全育成世代間交流グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。開会式では刈林チームの佐藤幹太くん(栖原小5年)、稲本雅響くん(栖原小4年)の2名が選手宣誓を行い、大会には16チーム・約102名が参加しました。当日は晴天に恵まれ、小学生からお年寄りまで、世代を越えて楽しく交流することができました。成績は次のとおりです。

青少年健全育成世代間交流 グラウンド・ゴルフ大会

【団体の部】

優勝 刈林B／準優勝 弥五島／3位 ホールイン大松川

【個人の部】

○小学生の部

優勝 小沼千雛(弥五島)／準優勝 渡部葵(芹ノ原)／3位 室井葉月(ホールイン大松川)／中学生の部

優勝 玉川陽向(刈林C)／準優勝 稲本椰子(刈林C)／3位 大竹玖実(大竹チーム)

○一般の部

優勝 児山正己(刈林C)／準優勝 星達生(刈林C)／3位 植村のぶ子(弥五島)

○高齢者の部

優勝 室井富士男(ホールイン大松川)／準優勝 室井恒男(刈林B)／3位 佐藤隆美(あじさい)

【ホールインワン賞】

室井恒男 星達生 山寺一弘 児山正己 室井強 星忠宏 渡部真一 小沼弘一 植村のぶ子 玉川澄人 室井ヨシ 佐藤勤 室井富士男 佐藤由菜 佐藤昭一 佐藤武巳 一柳貞夫 佐藤佳利 佐藤隆美



下郷ふるさと祭り宵夜祭における巡回補導

7月25日(土)に大川ふるさと公園で開催されたふるさと祭り宵夜祭において、町民会議補助部会事業の一環として、南会津警察署・少年補導員の方々と合同で、会場内外の巡回補導を実施しました。

青少年健全育成作品コンクール入賞者

*標語の部（小学校の部 5年生）

賞	氏 名	内 容	学校
最優秀賞 1点	きた 北 りゅう 龍 せい 晟	いじめをね ストップさせよう 正義の心	江川
優秀賞 2点	おお 大 たけ 竹 みい 唯 奈	たくさんの 仲間とできる 絆の和	栖原
	わた 渡 なべ 部 しゅ 愁 う 羽	「ありがとう。」 その一言で 笑顔咲く	旭田
佳 作 5点	ほし 星 な 奈 お 緒	「ありがとう」 心を結ぶ 大切な言葉	江川
	あ 阿 べ 部 ゆう 優 し 志	大切にしよう 一人に一つの かけがえのない命	江川
	ほし 星 まぎ 風 さ 紗	友達と 気持ちを伝えて 切れない絆	栖原
	ほし 星 こう 幸 せい 晴	下郷の 自慢の一つ 笑顔祭	栖原
	むろ 室 い 井 だん 弾	ごはんはね 家族と食べると おいしいよ	旭田

*標語の部（中学校の部）

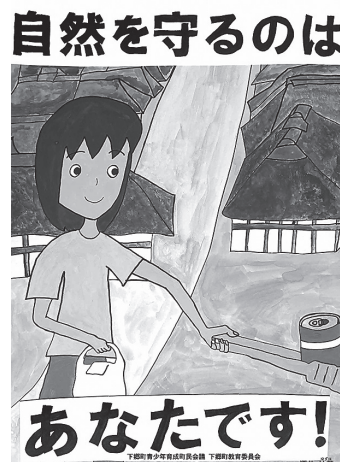
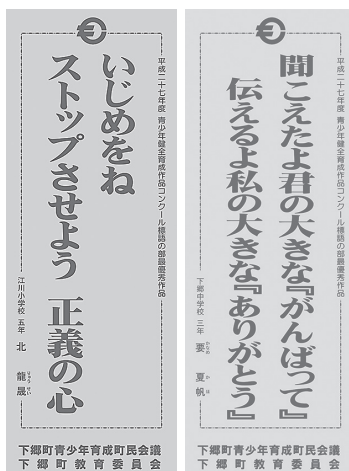
賞	氏 名	学年	内 容
最優秀賞 1点	かなめ 要 か 夏 ほ 帆	3	聞こえたよ君の大きな『がんばって』 伝えるよ私の大きな『ありがとう』
優秀賞 2点	あさ 浅 ぬま 沼 あや 彩 か 夏	3	スマホより 家族との時間 増やそうよ
	むろ 室 い 井 しゅん 駿 すけ 佑	1	優しさで 町に笑顔を 咲かせよう
佳 作 4点	しら 白 かわ 川 る 龍 か 香	3	思いやる それが未来への 第一歩
	ゆみ 弓 た 田 まな 愛 み 実	3	こんにちは 知らんふりせず こんにちは
	ゆ 湯 だ 田 まな 愛 か 加	1	「ありがとう。」 その心に咲く 愛の花
	ゆみ 弓 た 田 み 未 らい 来	1	思いやり 心つながる みんなの輪

*ポスターの部（小学校の部 6年生）

賞	氏 名	内 容	学校
最優秀賞 1点	さか 酒 い 井 ゆづ 柚 は 葉	自然を守るのは あなたです！	旭田
優秀賞 2点	ほし 星 あかり	やってみよう すすんで おてつだい	旭田
	いち 一 やなぎ 柳 れ 怜 お 央	しもごうの 米・野菜 おいしいよ！！	旭田
佳 作 5点	いた 板 ばし 橋 さ 咲 き 季	あいさつは笑顔になる一言	栖原
	たま 玉 かわ 川 ふゆ 冬 み 美	友だちだよ 下郷の山と川	旭田
	おお 大 たけ 竹 れ 玲 な 奈	万引きは 子どもであっても犯罪	栖原
	ほし 星 たい 汰 が 河	イジメは終わっても 心のきずはなおらない	江川
	こ 小 やま 山 ひ 陽 な 向	ひとりじゃないよ	江川

*ポスターの部（中学校の部）

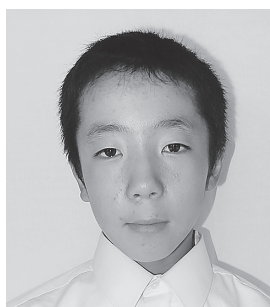
賞	氏 名	学年	内 容
最優秀賞 1点	ほし 星 な 菜 つみ 摘	3	その一言でゴミ削減
優秀賞 2点	わた 渡 なべ 部 ゆう 優 が 賀	3	少しのことで守れる自然
	わた 渡 なべ 部 けん 顕	3	その言葉送っていいの？
佳 作 4点	さ 佐 とう 藤 しゅう 斗 と	3	森林は町を守る希望
	わた 渡 なべ 部 ひ な 菜	3	その一言で人生バラ色
	ほし 星 れ 怜 な 奈	3	やめようその行動
	むろ 室 い 井 きょう 香 か 花	2	ポイ捨ては、悪い心の始まり





なぜ「戦争」はあるのか

下郷中学校 1 年
渡部 愛佳



今、思うこと

下郷中学校 1 年
芳賀 祐亮

青少年の主張発表 中学生の部

今年の四月から、ぼくは中学校というぶたに上がることになりました。これから、ぼくが体験したことを話したいと思います。

まず、上下関係です。二・三年生の方へは、「先輩」をつけなければいけませんし、敬語を使わなければいけません。ぼくは時々、同じ小学校だった先輩に君やさんと呼んでしまったり、いつもの調子でしゃべってしまったりすることがあります。敬語は、これからずっと先まで使っていくと思うので、ここでしっかりと身につけたいです。

実は、上下関係はこれだけではありません。部活では、多くの道具を運ぶなど早く準備をしなければなりません。何かをするときや、何かをいただくときにも、先輩が優

なぜ「戦争」はあるのだろうか。私はそんな風に考えたことが何度もあります。「戦争」というものがこの世に生まれたこと自体が不思議なのです。

私は道徳の教科書にこんな言葉があったのを覚えています。

「目を閉じて二・三秒と数えてみてください。この三秒の間に世界のどこかで子どもが一人死んでいます。」

場所時間かまわず、三秒数えれば子どもが一人死んでいると思うと悲しくなります。その死んでいく

先です。

この他にもたくさんのルールがあります。このルールは忘れずに、守っていききたいです。

次に、授業です。授業ごとに先生や教室が変わることには、少しおどろきました。中学校はとも在校舎が広いので、今でもさがさないと見つけられない教室があります。早く全ての場所をはあかし、いつでもすぐに行けるようにしたいです。

授業では、新しい教科が加わったり、難しくなったりしています。特に大変なのは、英語です。ふだんの授業では、先生と楽しく行っていますが、いざ、テストとなると、なかなか思うように書けません。単語一文字一文字をうる覚えにすると大変です。だから、自主勉強以外でも、ノートに書いたりしています。とにかく多くのことを覚えなければなりません。

子どもの多くは、戦争の被害によるけがや病気、貧困によるものです。罪のない子どもがなぜ戦争にまきこまなければならないのでしょうか。なぜ関係のない人たちがまで殺し合いをするのでしょうか。

「今、世界で起きている戦争はなぜ起きているのだろうか。その戦争で伝えたいことがあるのなら、言葉で伝えればいいのに。」

私は人同士が傷つけ合って物事を決めるのはとてもよくないと思っています。まして、世の中には傷つけ合うことを快楽に感じている人

各授業には、宿題が出る場合もあります。忘れてしまうと、後で苦労をするし、点数も下がってしまうので気をつけなければなりません。

そして、部活です。ぼくは野球部に入学しました。先ほど話したように、先輩より先に行き、準備をし、多くの道具を運ばなければなりません。ぼくは、少し人より行動がおそいので、もっと早く動けるようにしなければと思っています。

試合でみる、先輩の投球、先輩のファインプレー、先輩のすごい打球には、とても心ひかれます。「やっぱり先輩はすごいなあ、自分もあんな風になりたいなあ。」と思ったことが何回もあります。そのため、毎日の練習をもつとがんばり、先輩の動きをよく見て、まねできるようにしたいです。

今回の郡中大連では、荒海中に

だっているのです。

戦争で得るものは何一つありません。戦争で失うものは人々の尊い命です。得るものがなく、失うものの方が大きいことをやり続けるのにどんな意味があるのでしょうか。

戦争をし、苦しんでいる国があるというのに、ただ黙って見ているのは傍観者にすぎません。宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の中にこんな一節があります。

「北ニケンカヤソシヨウガアレバ、ツマラナイカラヤメロトイイ」

は勝ちましたが、南会津中には負けてしまいました。ぼくたちの応援が足りなかったのだと思います。来年こそは、全会津に行つて県大会まで出場したいです。

八月の新人戦では、試合に出られるよう、努力したいです。

この学校に来て良かったと思ったことは、先生方や先輩方がとてもいい人ばかりだということです。

楽しいし、おもしろいし、時には少し厳しいけれど、とても優しい先輩方と毎日を過ごせて、ぼくは幸せな気分です。ぼくも、一・二年後、よき先輩であるようにしたいです。

最初は不安だったけれど、こんなにいい所だとは思っていませんでした。これから、いろんな行事があり、そして部活も大変になってくると思いますが、毎日をがんばっていきたいと思っています。

戦争はつまらないものです。だから、戦争をしている国があれば止めてやればいいのです。戦争は大きなケンカです。普通のケンカと同じように、ケンカの原因を整理し、お互いが悪かった所を認めて、仲直りをすれば、それで済むはずなのです。しかし、現実には見栄を張ったり、意地を張ったり。そしてそこからまた争いが起きます。それがもつと大きくなつて戦争になるのです。同じことの繰り返しです。戦争をしても何も罰せられないのなら、日本と同じように戦争をしてはいけな



今は亡きひいじいちゃん

下郷中学校2年
五十嵐 瑠奈

ひいちゃんが帰ってくると、すぐに救急車を呼び、病院に向かいました。私達は心配で心配で心がひきぎれそうでした。十時位に連

私のひいじいちゃんは、二年前の十二月二十八日に百歳で亡くなりました。そのとき、私は自分にとって、大切な大切な存在をなくしてしまいました。

私は二年前の青少年の主張発表で『私の自まんのひいじいちゃん』という題で発表しました。そして、この作文で十二月二十八日に県知事賞をとりました。私はその日、わくわくと心はずませて家に帰りました。私はこのことをだれよりも早くひいじいちゃんに伝えたかったのです。そして、ひいじいちゃんのもとへいちもくさんにかけつけました。ところが、ひいじいちゃんに異変を見つけたのです。いつもは、びんぴんしているひいじいちゃんがベツトに寝こんでいました。私はすぐに電話でじいちゃんに、連絡しました。

い法律を作ればいいのです。そうすれば、今よりもつと戦争は減るでしょう。しかし、全てがなくなるといわけではありません。

人間に限らず争いことは起きます。動物だって魚だって虫だって争います。だって、みんな生きていますから。仕方ないことなのです。でも、人間だけは仕方ないことではすまされないのです。人間は考えられる力を持っています。だから

九時ぐらいに急に一本の電話が来ました。おばあちゃんはその電話に出ると、少し困ったような顔つきになりました。おばあちゃんが電話

絡があり、「大丈夫だ。」と聞きました。安心しました。私達は家族でひいじいちゃんの所にお見舞いに行きました。するとひいじいちゃんは、ベツトに寝たまま、

「もつぎり飲みつちいなあ。」

と言いました。もつぎりとは、ひいじいちゃんが夜に飲むお酒です。そして、ひいじいちゃんの望みを叶えるため、次に行った時に、お酒をもつていきました。ひいじいちゃん、は、けつこう弱っていました。でもひいじいちゃんは全部の力をふりしぼつて、私達に笑顔を見せてくれました。私はそんなひいじいちゃんに、笑顔で

「また来るから元気にしててよ。」

と伝え、病院をあとにしました。

病院から帰った後、おばあちゃんと私とお母さんはテレビを見ていました。その時です。

ら頭を使えば、傷つけ合わずに物事を解決できるはずですよ。なのに、頭ではなく暴力を使つて解決しようとする人がいるのです。その人たちが戦争をおこすのです。もつと相手の気持ちを考えて行動すれば、もつと平和的な方法で物事を解決しようとしていけば、今起きている戦争や紛争はもしかしたら起こらなかったのかもしれない。

戦争も紛争もない平和な地球を

みてみたいものです。戦争も紛争もなければ、この美しい地球はもつともつと美しくなります。「そんなことができるはずがない」と思うかもしれない。ですが、私はそれが必ずできると信じています。まずは身の回りのケンカをなくすのです。「ちりも積もれば山となる」といいま

を切るとすぐに、私は聞きました。「どうかしたの?」

するとおばあちゃんは、

「じいちゃんが死んだつて連絡が来たんだあ。どうすつて。」

私はもう涙が止まりませんでした。

夜中の二時位に

「じいちゃんが帰ってきたよ。」

というお母さんの声。私はじいこの所へ行きました。じいこの所でお母さんが言いました。

「今日行った時は元気だったのにね。まだ生きてるみたいだね。」

私はただうなずいて、泣きました。この時、私はひいじいちゃんのことと頭がいっぱいでした。今でも絶対に忘れることなどできません。私はひいじいちゃんに言い忘れたことがあります。それは、「ありがとう」です。ひいじいちゃんには、生まれた時から、お世話になつていました。いつでも面倒を見てくれました。ひいじいちゃんは常に笑顔でいて、とてもやさしいひいじいちゃん

めなさい」と声をかけたいです。そして、もう二度とこんなことが起きないように注意をするのです。その人が二度と暴力的なケンカをしなくなつたら、私はそれでとても嬉しいです。

「ちりも積もれば山となる」のを信じて、この地球がいつか本当に平和になる日がくるのを、私は願つてどんな小さないきいも、あきらめずに止めていこうと思います。

でした。たまに、戦争で体験したことを話してくれました。ひいじいちゃん、本当にありがとう。

日本は今、高齢化社会をむかえています。お年寄りが増えるところから未来が大変だなどと、言われることがあります。しかし、反対にそのお年寄りが長年、生きてこられた中で培ってきた生き方を学べるチャンスだと、私は思うのです。私のひいじいちゃんは死んでしまう前に、笑顔を見せました。私はその時、ひいじいちゃんは、

「おれは死んでしまふけど、最後は悲しい顔じゃなくて、別れるなら笑顔で別れような。」

と思い、私に伝えてくれたのだと思います。

これが、ひいじいちゃんの生き方だと思ひました。私も自分の生き方を探しながら生きていこうと思ひます。ひいじいちゃん、本当に最後までありがとう。



無駄な 時間はない

下郷中学校3年
渡部 保乃華

皆さんは、「無駄な時間を過ごした」と後悔したことはありませんか。私は、約一年間、時間にするに八千七百六十時間を無駄にしてしまいました。

私は、吹奏楽部に所属しています。三年生六人、二年生十一人、一年生十人の計二十七人で活動しています。三年生六人に対して、二年生が二十一人と圧倒的に多いですが、協力して楽しく活動しています。今は、七月十一日にある県

吹奏楽コンクール会津支部大会に向けて、練習を頑張っています。私は、トランペットという楽器を吹いています。私がトランペットを希望した理由は、部活見学をしたときに、トランペットを吹いている先輩が、同じ小学校出身だったから、という単純なものでした。しかし、トランペットを吹いているうちに、「綺麗な音色だな」「かっこいいな」と思うようになり、どんどんトランペットの魅力に引き込まれていきま

した。

「県大会に行く」という目標で、一年生のときから頑張ってきました。先輩や先生から厳しく指導されて、「もう部活なんか行きたくない」と思うこともありましたが、「私のために言ってくれているんだ」と思っ頑張りました。

しかし、二年生になつてからは、勉強も部活も真面目にやらなくなつてしまいました。

二年生は、よく「中だるみの学年」

と言われますが、まさに自分のことだと思いました。先輩に何か言われても、「なんで自分ばかり」「ああ、面倒だな」と思うようになってしまいました。一年生が部活に入つてきて、私は先輩として後輩にいろいろと教えてあげる立場なのに、いらいらしてしまい、後輩との仲も悪くなつていきました。

いつの間にか三年生になりました。受験生という意識が高まるとともに、部活も今年で終わりな



言葉の大切さ

下郷中学校2年
星 彩里菜

みなさんは、言葉遣いに気をつけて生活をしていますか。「言葉」は相手を「笑顔」にすることができず。しかし、言葉の使い方を少しでも間違えると、相手がとても嫌な気持ちになったりすることがあります。

私が最近聞くようになった言葉は、

「バカ」

「うざい」

「死ね」

「きもい」などです。

このような言葉を言つてもいいのでしょうか。こんな言葉を言われた人は、嫌な思いはもちろんしますし、落ち込んだり、悲しくなったり、悩んだりします。さらには、人を信じるのが出来なくなつてしまうかもしれません。「辛い」という思いから「死にたい」という思いに変わってしまうかもしれません。その時、あなたはどのような言葉をかけてあげますか。

普段の学校生活の中でも、「辛い」

と思っている人がいるかもしれません。

「どうか行つてくんない。」

「マジうざいから消えてくんない。」

など、このようなことを言われた人は、どんな気持ちになるでしょうか。その言葉がずっと頭の中で繰り返されて、とても辛くなるはずです。私も少しだけそのような言葉を言われたことがあります。その時、先輩が、

「どうした。元気ないぞ。」と声をかけてくれたのです。

私は、先輩に相談しました。私は先輩にたくさん助けてもらいました。私は悩みを聞いてもらったことがとても嬉しかったです。声をかけてもらったことが何より嬉しかったのです。私は先輩のような強い人になりたいと思いました。

「ありがとう」

この言葉は、みんなを笑顔にさせられる言葉です。この言葉で、下郷町に、福島県に、全国に、世

界に笑顔という花を咲かせられないでしょうか。

言葉の暴力は、相手の心に傷を刻んで、その人を辛く、苦しくさせているだけで、何の解決にもなりません。

「どんなに辛くても、どんなに苦しくても、どんなに嫌になつても、どんなにバカにされていても笑顔でいれば、いつかきつといいことが自分にやってくる。」

私はこの言葉を信じて生きていこうと思います。自分がやったことはすべて自分に返ってきます。いい事をする、もちろんいい事が自分に返ってくるし、逆に悪い事をしたならそれよりひどい事が返ってきます。

「言葉」というものは、人をよこばせることができるし、使い方を間違えると、簡単に人を傷つけることもできるという二つの特徴を持っています。

なので私は、

「バカ」

「うざい」

「死ね」

「きもい」

などの、人を傷つける言葉を使うのではなく、

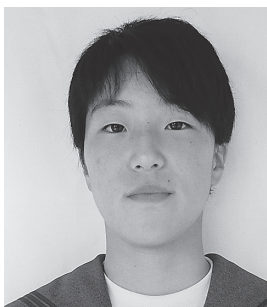
「ありがとう」

などの、人をよろこばせられるような言葉をかけてあげて、一人でも多くの人が笑顔になれるようにしたいです。

みなさんの近くに、辛くて「もう嫌だ」と思っている人はいませんか。そんな時は「どうしたの?」「大丈夫」と、声をかけてあげてください。この小さな気遣いが相手にとつて大きな感謝になります。「辛い」「苦しい」「もう嫌だ」「死にたい」こう思つてしまう人が世の中には、たくさんいます。

まずは私たちの身近な人たちである友達や家族の心に気付ける人になりましょう。そしてその身近な人たちに声をかけてあげてください。

私は、一人でも多くの人に、「言葉の大切さ」について、知ってもらいたいです。



新しい自分に

下郷中学校 3年

渡部 もも

皆さんは、「今」として向き合っていますか。毎日が楽しいとか、つまらないとか、誰と過ごしたいとか、何について悩んでいるとか…、皆さんの「今」は、どんな様子でしょうか？

私は、「今」のことを聞かれても、はつきりと答えられません。それは、過去の失敗や過ちをずっと引きずり、新しい自分になることができないからだと思います。

私の中には、過去を引きずっている自分があります。過去に戻ってやり直したいと思ったことが何度もありましたが、ドラマや映画のように、過去に戻ることはできません。例えば、小学校のスポ少時代のことです。私は、ソフトボールをやっていた。試合で負けたり、仲間がエラーしたり、点を取られたりすると、すぐにふてくされて泣く。そういう自分でした。今でも、「江川つて弱かったよな。」と言われることがあります。軽く流しますが、本当は、言われるたびに、その言葉が深く心に刺さっています。しかし、

だと思ふようになりました。「今年で終わり」と思うと、「絶対に県大会に行きたい」と思うようになって、部活も真面目にやるようになりました。

しかし、二年生のときのさぼる癖は、なかなか治ることはなく、「基礎練習辛いな」「面倒だからさぼりたいな」と思うことが何度もありました。しかし、「今年で終わり」と

という言葉を思い出すと、やる気が戻ってきて、辛いと思う練習にも、しっかりと取り組むことができました。私はパートリーダーで、一・二年生に教えたりアドバイスしたり、練習をリードする立場です。自分が練習の手を抜いて上手に吹けなかったら、後輩に教えることはできません。そんなことも考えて、日々練習を頑張っています。

そう言われても仕方ありません。私は、最後まで同じ態度、同じ気持ちでスポ少を終わってしまったからです。私は、負けるのはチームが弱いせいだと思っていました。でも、一番弱かったのは自分自身だったのです。

私は、今も過去の自分のままです。今をよりよく生きたいのに、どうしても過去の自分を思い出し、ネガティブになってしまいます。変わろうとしても、結局変われずにとくさんの人に迷惑をかけるのが怖いのです。

私は、生徒会長という役に就いています。以前は副会長だったのですが、会長に立候補するのは当然という雰囲気でした。自分の立場は分かっています。生徒の代表としてみんなの模範になり、よりよい下郷中を目指して積極的に行動する。しかし、過去を引きずり新しい自分に変われない私が、会長として学校をリードできているのか、とても不安です。

最近、校則を守れないことがあ

二年生のときの自分は、今思うと、とても情けないです。そして、今になってそのことに気づいた自分が、もつと情けないと思っています。無駄にした二年分の時間は、悔やんでも返ってくることはありません。しかし、これから取り戻すことはできると思います。これからは、皆さんの物を失ったり無駄にしたりすることがあるかもしれません。しか

り、先生や親に叱られました。「今度から注意しよう。」と気持ちを切り替えればいいのに、やっぱり叱られたことを引きずって、翌日も友達や先生に迷惑をかけました。友達は、「軽く流せばいいんだよ。」「前は深く考えすぎだ。」と慰めてくれましたが、私は自分がとても情けなくなり、涙が止まりませんでした。みんなは、何かあっても気持ちを切り替えて、まわりに心配をかけないようにしているのに、自分とは…。私にとつて、新しい自分になるというのは、とても難しいことでした。学校の顔になるとともに、自分自身の進路も見据えて、目の前の道を真っ直ぐ進んでいくべきなのに、私は、本来歩くべき道とは違う道を歩いている。今でも自問します。自分は、ずっとこのままなのか。このままでいいのか…。

いいえ、このままでいいはずがありません。私は、こう思います。過去を引きずっているのは、過去とちゃんと向き合っていないからだと。過去の失敗や過ちから目を

し、そのことを悔やんでいるだけでは、前には進めないのです。悔やんでいる時間があるなら、取り返す時間にしていきたい。そうすれば、本当に無駄な時間などないのです。実際に私も、あの一年間を過ごしたことで、今大切なことに気づくことができたのですから。

背けず、そこから得たものに目を向け、「今」に生かす。引きずるとは、過去のネガティブな自分から、変われずに逃げる。向き合うとは、過去の失敗や過ちを解決して、新しい自分に生まれ変わる。そうすれば、「今」をよりよく生きることができ。難しいことかもしれないけれど、諦める前に挑戦してみます。今までのように、変わらないまま後悔したくない。過去を引きずっている私が「今」を生きてこられたのは、支えてくれた皆さんの人と、その思いがあったからです。今まで叱ったり励ましたりしてくれた人たちに、変わった私を見せたい。これからは、失敗や過ちを「悪い記憶」ではなく、「人生のよい経験」に切り替えて、「今」、そしてこれからのよりよい自分をつくる材料にしたい。そうすれば、残された大切な中学校生活も充実するはず。そして私は、かけがえない仲間たちと、笑って卒業します。

私は、答えを見つけました。